

NEWSLETTER

比較経済体制学会

No.46 December 2013

Contents

- ・ 比較経済体制学会 2014 年第 54 回全国大会のお知らせ： Call for Papers
- ・ 比較経済体制学会・米国比較経済学会・韓国比較経済体制学会・新興市場研究学会 合同コンファレンス（ハワイ）のお知らせ：Call for Papers
- ・ 比較経済体制学会第 12 回秋期大会を終えて
- ・ 2014 年秋期大会のお知らせ
- ・ ICCEES2015 世界大会プロポーザル募集のお知らせ
- ・ 編集委員会からのお知らせ
- ・ 比較経済体制学会臨時会員総会議事録
- ・ 幹事会だより
- ・ 比較経済体制学会第 5 回研究奨励賞決定
- ・ 比較経済体制学会研究奨励賞規定
- ・ 新入会員のご紹介
- ・ 学会ニュース 1：田畑伸一郎会員が第 3 回地域研究コンソーシアム研究企画賞を受賞
- ・ 学会ニュース 2：岡本信広会員が第 12 回日本地域学会著作賞及び 2013 年度環太平洋産業連関学会学術賞を受賞
- ・ 日本経済学会連合平成 26 年度補助申請に関するお知らせ
- ・ 日本学術会議「経済学分野の参照基準検討分科会」原案に対する意見募集のお知らせ
- ・ 事務局だより

比較経済体制学会 2014 年度第 54 回全国大会のお知らせ：

Call for Papers

比較経済体制学会 2014 年度第 54 回全国大会は、次の日時と場所で開催されることになりました。

日時：**2014 年 5 月 31 日（土）および 6 月 1 日（日）**

場所：**山口大学吉田キャンパス**

共通論題「ロシア、中央アジア、中国のポリティカル・エコノミー：「国家資本主義」（権威主義を含む）をめぐって」

昨今のロシア、CIS、中国の現状を鑑みて共通

論題を「ロシア、中央アジア、中国のポリティカル・エコノミー—「国家資本主義」（権威主義を含む）をめぐって—」としたいと考えています。報告者は鋭意検討中です。どうぞふるってご参加ください。

自由論題の報告者を募集致します。自由論題は、前回大会同様に、(a) パネル応募形式のものと (b) 個人応募形式のもの 2 種類を設定することにしました。

(a)パネル応募形式は、司会、報告者(3人)、コメンテータ(1-2人)を自主的に組織していただくものです。報告・コメント・会場討論を合わせて90分程度で終了するものをお考えください。パネル組織者は次の事項を末尾の連絡先にお知らせください。

- (1)パネル組織者の氏名、所属、連絡先
- (2)報告者、司会者、コメンテータの氏名、所属
- (3)パネルのテーマ
- (4)各報告の論題
- (5)パネル全体の趣旨と各報告の内容についてA4判1~2枚程度にまとめた文書

(b)個人応募形式の方は、以下の事項を末尾の連絡先にお知らせください。

- (1)氏名、所属、連絡先
- (2)論題
- (3)報告内容の骨子(400~600字程度)

(a)(b)共に締切は3月1日(土)17時と致します。自由論題は報告者の希望に沿うことを旨としますが、会場等の都合により、ご希望に添えない場合もあることをあらかじめご了解ください。皆様のご応募をお待ちしております。自由論題パネル・報告者の決定につ

いては、3月中に応募者皆様にお知らせ致します。なおその後の日程ですが、報告要旨原稿(電子情報)提出・討論者および分科会座長のためのフルペーパー御提出をお願いすることとなります。こちらの決定詳細につきましては追って再度、皆様にお知らせ致します。

プログラム委員:

田畑理一(委員長, 大阪市立大学), 杉浦史和(帝京大学), 田畑伸一郎(北海道大学), 丸川知雄(東京大学), 阿部新(山口大学)

大会組織委員:

阿部新(委員長, 山口大学), 小出秀雄(西南学院大学), 菅沼桂子(日本大学), 中谷勇介(西武文理大学), 道上真有(新潟大学)

***自由論題(パネル・個人応募)連絡先:**

プログラム委員 杉浦史和

〒192-0395 東京都八王子市大塚359 帝京大学経済学部 Fax: 042-678-3970

E-mail: fsugiura(at mark)main.teikyo-u.ac.jp

(大会プログラム委員会・大会組織委員会)

比較経済体制学会・米国比較経済学会・韓国比較経済体制学会・新興市場研究学会・合同コンファレンス (ハワイ)のお知らせ: Call for Papers

本学会は、米国比較経済学会等との共催で、2014年5月に国際コンファレンスを開催いたします。米国比較経済学会事務局長 J.Brada 氏、ソウル大学教授 B-Y. Kim 氏、本学会前代表幹事・米国比較経済学会理事久保庭真彰氏の共同提案によるものです。

日程は2014年5月14日から17日にわたり、米国ハワイ州ハワイ島ワイコロアにて開催します。

報告申し込み(要旨提出)の最終〆切は4月18日、そしてフルペーパーの送付が5月5日〆切とされていますが、応募次第随時受入可否決定を行いプログラムを固めていくという段取りで進められますので、先方の事務処理上、より早期の申し込みをお心がけ願います。

本学会に金銭的負担は発生しませんが、参加なさる会員は、大会**登録料250米ドル**を支払うことが必要です。**ご宿泊は会場ホテル**をご利用ください。なお、**会議前後3日間、会議用特別料金での宿泊が可能で、また会場ホテルのミーティングルームを研究会等のために無料使用することも可能**となっています。

報告されるものうち質の高い論文は、Journal of Comparative Economics や Comparative Economic Studies 等のコンファレンス特集号への掲載の機会もあり得ます。奮ってご参加下さい。なお詳細は下記の通りです。

本件につきましては、メーリングリストでもご参加の呼びかけを行っています。

(事務局)

Call for Papers and Conference Announcement

Pacific Rim Conference 3: Financial and Economic Links and Institutions for Prosperity

Hawaii USA, May 14-17, 2014

The Association for Comparative Economic Studies (ACES), the Japanese Association for Comparative Economic Studies (JACES), the Korean Association for Comparative Economic Studies (KACES) and the Society for the Study of Emerging Markets (SSEM) invite the submission of papers for, and participation in, a major international conference, (**PacRim 3**) dealing with developments in the economic and financial systems of the Pacific Rim economies as well as in the global economy. Empirical and theoretical papers related to the theme of the conference as well as papers dealing with institutions, political economy and policy issues are welcome. Participants are invited to submit individual papers for presentation or to propose an entire panel consisting of four papers.

Among the themes to be considered at the conference are:

- *Prospects for growth in the global economy and in the Pacific Rim region*
- *Economic transition and system change*
- *Sustainable development of the global economy and the Pacific Rim economies*
- *Value chains and logistics- Pacific Rim economies' links to each other and to the global economy*
- *Institutional and regulatory innovations for economic growth and financial stability*
- *Emerging economic and political conflicts as threats to prosperity*
- *Regional economic cooperation lessons from Asia, Europe and the Americas*
- *Evolution of financial systems and their regional and global linkages*
- *Central banks and monetary and exchange rate policy*
- *Emerging markets and rising interest rates – what are the risks?*

PUBLICATION OPPORTUNITIES

As with past PacRim conferences, selected papers presented at the conference will be published in symposia or special issues or as regular papers in the journals of the sponsoring organizations. For PacRim 3 these include *Journal of Comparative Economics*, *Comparative Economic Studies*, *Japanese Journal of Comparative Economics (in Japanese)*, *Emerging Markets Finance and Trade*, and *Seoul Journal of Economics*. Any papers not selected for journal publication will be guaranteed (subject to successful revision) publication in an e-book that will be posted on the SSEM web site. See <http://emergingcons.org/download/e-books.php>.

CONFERENCE VENUE

The Conference will be held at the Waikoloa Beach Marriott Resort & Spa, 69-275 Waikoloa Beach Drive, Waikoloa, HI 96738-5711

(<http://www.marriott.com/hotels/travel/koamc-waikoloa-beach-marriott-resort-and-spa/>).

We have secured a special rate of US\$150 (plus tax) per night for conference attendees, and this rate applies to 3 days preceding and following the conference, giving attendees the opportunity to take advantage of this resort's outstanding facilities as well as of the attractions of the "Big Island" of Hawaii.

PAPER SUBMISSION AND REGISTRATION

Paper proposals, consisting of an abstract of not more than 250 words should be submitted to Josef Brada at josef.brada@asu.edu. Proposals will be reviewed by the Conference's scientific committee on an ongoing basis. The deadline for submissions of abstracts is April 18, 2014 and final papers must be submitted before May 5, 2014 in order to be included in the conference materials. The number of papers that can be accommodated is limited, so please be sure to submit your abstract early.

REGISTRATION

The registration fee for attendees is US\$250, which includes a cocktail reception on May 14 and a conference dinner/luau on May 17, 2014, coffee breaks and conference materials. Registration materials and information on how to reserve rooms at the conference rate will be sent to participants whose papers are accepted. If you wish to attend the conference without presenting a paper, contact [josef.brada\[at mark\]asu.edu](mailto:josef.brada[at mark]asu.edu).

比較経済体制学会第 12 回秋期大会を終えて

比較経済体制学会第 12 回秋期大会は、2013 年 11 月 9 日(土)に開催され、外国や学会外からの報告者も含め約 50 名の方々にご来場いただき、活発な議論の中、無事終了しました。遠路足を御運びくださいました外国人報告者、学会内外の報告者、並びに会員の皆様様に御礼申し上げます。

当日は、田畑理一代表幹事の開会の挨拶から始まり、午前の部の共通論題 1「アジアの「国進民退」」について、渡邊真理子会員とアジア経済研究所の坂田正三氏及びケオラ・スックニラン氏から、それぞれ中国・ベトナム・ラオスの状況に関する報告が行われました。討論者は、木崎翠会員と秋葉まり子会員が務められました。

続く午後の部では、ポーランドから Wojciech Bienkowski 氏をお迎えして特別講演が行われました。司会者は田口雅弘会員が務めてくださいました。

共通論題 2「移民と労働の移行経済論」は 2 つのパートに分かれ、岩崎一郎会員が司会を担当した前半部では、ウクライナからの外国人講演者 Olga Kupets 氏による基調講演がなされました。司会者を堀江典生会員に交代して行われた後半部では、樋渡雅人会員及び林裕明会員による会員報告があり、堀林巧会員と柳原剛司会員から討論がなされました。

自由論題では、徳永昌弘会員の下、井上武会員、

王学龍会員及び金丹会員による報告が行われ、それぞれの報告に対して大田英明会員、小原江里香会員、阿部新会員による討論がなされました。

また本秋期大会では、幹事会後に臨時総会が開催されました。

最後に、国際色溢れる本秋期大会のプログラムをご準備くださった林裕明プログラム委員長並びにプログラム委員の田畑理一会員、岩崎一郎会員、木崎翠会員及び堀江典生会員に深謝申し上げます。そして、会場運営をお手伝いいただきました“チーム一橋”(仮称)ともいえる、大会組織委員の岩崎一郎会員、池本修一会員、杉浦史和会員、鈴木拓会員に加え、佐藤嘉寿子会員、志田仁完会員、柳学洙会員、浅川あや子会員、ヴィクトリア・カン会員にもスタッフとしてお手伝いいただきました。大会を無事終えることができましたのは、上記を始めとする多数の方々のサポートのお蔭です。厚く御礼申し上げます。

第 12 回秋期大会組織委員長 菅沼桂子

2014 年秋期大会のお知らせ

2014 年秋期大会は、松澤祐介会員を組織委員長として西武文理大学にて開催することとなりました。10 月 25 日頃の開催予定です。詳細については追って

ご連絡致しますので宜しく御願い申し上げます。

(事務局)

ICCEES2015 世界大会(幕張大会)プロポーザル募集のお知らせ

(第 9 回国際中欧・東欧研究協議会(ICCEE))

第 9 回国際中欧・東欧研究協議会(ICCEES)世界大会が、**2015 年 8 月 3 日-8 日**に**日本・幕張**で開催されます。ICCEES2015 世界大会(幕張)の詳細は、(<http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/iccees2015/index.html>)をご覧ください。**既にプロポーザル・パネル・自由論**

題等の募集が開始されており、2014 年 5 月 31 日が

応募締切です。会員の皆様におかれましては奮ってご参加下さい。(事務局)

編集委員会からのお知らせ

学会機関誌『比較経済研究』(英語名称: Japanese Journal of Comparative Economics)は、レフューリー制投稿誌として、年 2 回発行しています。来年 1 月に刊行予定である 51 巻1号の企画内容は、次の通りに決定しました。

特別企画: 学会機関誌編集委員会「日本比較経済研究の半世紀:学会機関誌50巻の歩みを振り返って」

特集: 比較経済への歴史的接近
 栖原学「ソ連工業生産指数の推計とその含意」
 中村靖「ソ連経済発展の貨幣的側面」

書評

高橋和・秋葉まり子著『EU 統合の流れの中で東欧はどう変わったか』(岩崎一郎評)
 野部公一, 崔在東編『20世紀ロシアの農民世界』(森岡真史評)
 福原宏幸・中村健吾編著『21世紀のヨーロッパ福祉レジーム:アクティベーション改革の多様性と日本』(里上三保子評)
 上垣彰・田畑伸一郎編著『ユーラシア地域大国の持続的経済発展』(加藤弘之評)

投稿原稿(論文(400 字×55 枚以内), 研究ノート(400 字×45 枚以内), 書評(400 字×17 枚以内))を募集中です。原稿は随時受け付けていますが、**次号 51 巻 2 号(2014 年 6 月刊行予定)の投稿〆切は、2013 年 12 月末**です。同号に掲載ご希望の会員は、井上武編集委員(takeinoue1 [at mark] aol.com)に、原稿をご提出下さい。なお、企画の都合上、掲載号が次々号となる場合がございます。続く**52 巻 1 号(2015 年 1 月刊行予定)の投稿〆切は、2014 年 8 月末**です。こちらは次期編集委員会が担当します。

なお、当学会に連続 2 年度以上在籍している若手研究者(院生会員及び年齢 40 歳以下の正会員)が単独執筆した機関紙掲載論文は、原則として、その全てが自動的に「研究奨励賞」の候補対象となります。応募資格を持つ会員の皆様は、とくに奮ってご投稿ください。

『比較経済研究』は、独立行政法人科学技術振興機構が運営する科学技術情報発信・流通総合システム(J-STAGE)の登録雑誌です。最新号を含む全てのバックナンバーが閲覧可能です。どうぞ御活用ください。電子版トップページのアドレスは、<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jjce/-char/ja/>です。

最近 2 年間のアクセス統計データ(全文 PDF)は次の通りです。

年	月	アクセス数
2012	6	123
	7	110
	8	134
	9	307
	10	159
	11	105
2013	12	153
	1	144
	2	78
	3	103
	4	817
	5	589
	6	525
	7	821
8	571	
9	628	

(学会機関誌編集委員会)

比較経済体制学会臨時会員総会議事録

比較経済体制学会第11回秋期大会当日(2013年11月9日),臨時総会が開催されました。

臨時総会議長に清水学会員が選出されました。臨時総会は、プロジェクト資料と口頭説明にもとづいて進められ、承認された審議事項について記載します。

[審議事項]

第9回国際中欧・東欧研究協議会(ICCEES)世界大会が、2015年8月3日-8日に日本・幕張で開催されるに際して、ICCEES2015世界大会組織委員長下斗米伸夫氏(法政大学)から比較経済体制学会に対

して同大会への協力を依頼されたことについて、本学会では組織的なプロポーザル処理ならびに大会への参加協力と関係関連研究者への大会のPR協力とすることが会員臨時総会において提起され、承認されました。

また、ICCEES2015世界大会組織委員会に対して、参加登録料の値下げないしは、登録料の根拠を示すべく会計の透明性を高めることを要望する意見が提起され、事務局から同委員会へ要望することも承認されました。

(事務局)

幹事会だより

比較経済体制学会第12回秋期大会当日,幹事会が開催されました。

[確認・報告事項]

* 去る2013年6月14日に開催した持ち回り幹事会にて承認された事項一本学会が2014年5月ハワイ開催のPacific Rim Conference on Comparative Economicsと、2015年6月ローマ開催The First World Congress of Comparative Economicsを、米国・欧州比較経済学会と共催とすること、及び、2014年全国大会開催を山口大学とすることを確認いたしました。

* 研究奨励賞について栖原学審査委員長より、厳正なる審査の結果、第6回比較経済体制学会研究奨励賞はビクトリア・カン会員とすることが報告されました。

* 2013年10月末時点での退会者は10名、入会申込者は1名であることを堀江典生メンバーシップ担当幹事・事務局より報告がなされました。

* そのほか、学会誌の編集状況について編集委員会岩崎一郎副編集委員長より、日本経済学会連合評議員会について栖原学評議員より報告がなされました。

[審議事項]

* 2014年度全国大会(山口大学)の進捗状況について阿部新幹事より報告がなされ、また山口大学教育学部後援による大会開催となることが提起され、承認されました。また、2014年全国大会プログラム委員長を田畑理一代表幹事とすることが提起され承認されました。

* 2014年度秋期大会については、西武文理大学にて開催、松澤祐介会員を組織委員長とすることが

提起され承認されました。

* ICCEES2015世界大会組織委員長・下斗米伸夫氏(法政大学)から比較経済体制学会に対するICCEES2015世界大会への協力依頼(5項目)について①経済・経営関係の報告プロポーザルの取捨選択とセッション構成、②世界大会への同学会関係者の積極的なパネル提案、それへの参加、③関係関連研究者(含む海外)へのPRと誘引、④大会への早期登録、および寄付のお願い(早期登録による余剰分相当の寄付)、⑤若手研究者の報告への支援―審議した結果、本学会としては、①、②、③の項目を中心に、組織的なプロポーザル処理ならびに大会への参加協力と、関係関連研究者へのPRを行うこととし、その具体的な協力内容については本学会事務局に一任することが承認されました。また、幹事会が承認した同大会に対する本学会の協力について、臨時会員総会において承認審議を諮ることが決定され、臨時会員総会を開催しました(上記、総会議事録を参照)。

* 経済理論学会八木紀一郎代表幹事からの比較経済体制学会への要望書「日本学術会議経済学委員会分科会「経済学分野の参照基準検討委員会」に対する要望と署名運動」について、幹事会で協議した結果、①本学会としては会員の多様な意見を尊重し、「同 検討委員会」に対して本学会の意見統一やその表明ならびに組織的な署名のとりまとめは行わないが、②会員個人の自己責任による署名運動への参加について、本学会事務局より同運動を会員に周知するという形で対応することが提起され、承認されました。(事務局)

第 6 回研究奨励賞決定

比較経済体制学会第 6 回研究奨励賞審査委員会(審査委員長: 栖原学会員)は、機関誌掲載による選考対象作 3 作のなかから厳正なる審査の結果、以下のように受賞者を決定し、11 月 9 日に開催された比較経済体制学会幹事会で報告されました。なお、第 6 回研究奨励賞授賞式は、2014 年度全国大会(山口大学)において行われます。

受賞者: ビクトリア・カン会員

対象論文: 「大企業の再編成と中小企業の新規開業: ウズベキスタン移行経済の実証研究」

『比較経済研究』第 49 巻第 1 号(2012 年 1 月)31-44 頁

【抄録】本稿では、移行諸国における新規開業に影響を及ぼした地域レベルの要因を実証的に検証する。その際に、ウズベキスタン共和国国家統計委員会が収集し本稿の分析のために提供を受けた地区レベルのパネルデータを使用し、新規開業を促進する移行経済に特有の要因として、旧社会主義国有大企業の改革の効果を検討する。推定結果から、大企業の再編成や清算が地域レベルの開業率に対して統計的に高い有意性を持つ正の効果を与えることが示される。

第 6 回比較経済体制学会研究奨励賞 審査結果報告

審査委員長 栖原学 (日本大学)
 審査委員 上垣彰 (西南学院大学)
 審査委員 酒井正三郎 (中央大学)
 審査委員 徳永昌弘 (関西大学)
 審査委員 溝端佐登史 (京都大学)

今回の奨励賞応募論文は 3 点であった。学会研究奨励賞審査委員会は慎重な討議の結果、3 点のうち、ビクトリア・カン氏の「大企業の再編成と中小企業の新規開業: ウズベキスタン移行経済の実証研究」を学会奨励賞受賞作にふさわしいものと判断した。

この論文は、ウズベキスタンにおける旧社会主義国有企業の再編成と中小企業の新規開業の関係をテーマにしたものである。すなわち著者の仮説によれば、2000 年以降に同国において進行した旧国有大企業の私有化とそれに伴う再編成過程は、移行期において経済資源の不足に直面している起業家に事業機会をもたらし、同国における中小企業発展の強力な機動力となった可能性が大きい。この命題の当否を検証するために、著者は独自に入手した同国 188 の地域に関する最近のデータを使って、中小企業の地域内開業率を被説明変数とするパネル回帰分析を行なった。その結果、説明変数としての地域における「旧社会主義大企業密度」および「その減少率」が統計的に有意であることから、旧社会主義大企業密度(あるいはその減少幅)が大きい地域ほど中小企業の開業率が高いことが確認された。

実証の手法は堅実であって、その手続きについても過不足のない説明が行なわれている。推計結果の解釈も妥当であると判断される。さらに、確認すべき命題についての理論的な省察がなされており、また論文構成のうえからも、明らかにすべき論点を絞ったうえでそれを実証分析によって確認するというわかりやすい手順を踏んでいる。上述の著者の結論は、ある意味では常識的なものであるかもしれないが、それが実際にデータで確認されたことの意味は大きいと思われる。むしろモデル分析が明快であるためか、一部の審査委員から、特に本論文で使われたデータあるいはその結論に対して、具体的なフィールド調査によってそれらの妥当性を確認すべきであるという指摘がなされたことも付記しておく。

冒頭で述べたとおり今回の応募は 3 点であったが、いずれも対象分野や分析方法が互いに全く異なるもので、比較が難しかった。受賞作とならなかった 2 編についても、審査委員からそれぞれの長所が指摘された。ただし受賞作との差として、記述や構成の明確さをあげることができるように思われる。

2006年6月5日制定

2010年6月6日改正

比較経済体制学会研究奨励賞規程

(名称)

第1条

比較経済体制研究に関する学術の発展にとくに貢献すると認められる研究論文を顕彰することを目的として、会員(若手研究者)に対して「比較経済体制学会研究奨励賞」(以下「奨励賞」と呼ぶ)を与える。

(審査対象となる論文)

第2条

審査対象者の条件(第5条)を満たす会員によって執筆され、本学会機関誌あるいは他の学術誌に掲載された論文を審査対象とする。ただし入会初年度に公刊された論文は対象としない。他の学術誌に掲載された論文の場合には、本人あるいは他の会員の推薦を要する。また、論文は単著であることを要する。

(審査対象となる期間)

第3条

応募を行なう年度(当該年度)の前年度4月1日より当該年度3月31日までの2年間に公刊された論文を審査対象とする。

(授賞の回数および受賞者の数)

第4条

授賞は、2年ごとに1回とする。また受賞者は、原則として1名とする。

(審査対象者の条件)

第5条

審査対象者となる会員(若手研究者)は、当該年度を含み2年度以上連続して本学会に在籍し、院生会員または原則として審査対象期間の最終日において40歳未満の正会員とする。

(推薦方法)

第6条

第2条による、「他の学術誌に掲載された論文」の場合には、自薦または推薦者1名の他薦による。申請は、事務局による所定書類に基づく。

(審査機関)

第7条

幹事会は、翌年度6月に、5名からなる審査委員を指名し、審査委員長は審査委員の互選により選ばれる。ただし、原則として審査対象者の推薦者および指導教員は除外される。

(審査結果の発表)

第8条

審査委員会は、翌年度9月末日までに審査結果を幹事会に報告しなければならない。審査結果は秋期大会で発表される。

(表彰)

第9条

表彰は、原則として翌々年度全国大会総会時に行う。表彰に際し、表彰状と副賞が授与される。

(規程の改正)

第10条

本規程の改正および廃止には、幹事会の発議に基づき会員総会での出席会員の過半数の賛成を必要とする。

附則

1. 本規程は2010年6月6日から施行する。
2. 本規定に基づく募集の第一回締め切りは2011年3月31日とする。

新入会員のご紹介

2013 年度全国大会以降に入会なさった会員をご紹介します。

王 学龍(オウ ガクリュウ)氏
(北海道大学大学院経済学研究科)
推薦者:田畑伸一郎会員・樋渡雅人会員

学会ニュース 1:

田畑伸一郎会員が第 3 回地域研究コンソーシアム研究企画賞を受賞

北海道大学スラブ研究センター教授の田畑伸一郎会員が、「第 3 回(2013 年度)地域研究コンソーシアム賞研究企画賞」を受賞しました。

(以下引用)

2008～2012 年度新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較研究」(領域代表者 田畑伸一郎)は、第 3 回(2013 年度)地域研究コンソーシアム研究企画賞を受賞しました。

地域研究コンソーシアムは、世界諸地域の研究に関わる研究組織、教育組織、学会などをつないで、情報交換や研究活動を進めるネットワーク組織で、スラブ研究センターもその活動に積極的に参加しています (<http://www.jcas.jp/>)。

審査委員会の講評のなかでは、「現代において経済的なプレゼンスを高めるロシア、中国、インドを地域大国として位置付けて比較することによって、地域の特殊性や固有性を見いだすことを得意とする地域研究者が、敢えてそれらの国々

が持つ一般性・普遍性の解明に挑み、中軸国(先進国)認識とならぶ新たな基軸としての経済・政治モデルの提示を試みている点は、日本における世界認識を拡大し、大きく転換する上でインパクトを持ち得ている」ことが高く評価されました。

(以上北海道大学スラブ研究センターWeb サイトより:
<http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/rp/outline/award.html>)

本学会会員の地域研究コンソーシアム賞の受賞は第 1 回受賞の堀江典生会員に続いての快挙です。

研究代表者の田畑伸一郎会員をはじめ、同研究グループに参画された本学会会員の栄誉を称え、共に喜びたいと思います。

(事務局)

学会ニュース 2:

岡本信広会員が第 12 回日本地域学会著作賞および 2013 年度環太平洋産業連関学会学術賞を受賞

大東文化大学教授の岡本信広会員が、『中国の地域経済－空間構造と相互依存』日本評論社 2012 年で第 12 回日本地域学会著作賞および 2013 年度環太平洋産業連関学会学術賞を受賞しました。

(以下引用)

* 日本地域学会著作賞

第 1 条 日本地域学会(以下、本学会)会則第 4 条第五号の規定に基づき、本学会に著作賞をおく。

第 2 条 著作賞は、地域学の発展に著しく寄与し、その意義や貢献が多大であると判断できる著作物を表彰する。

第 4 条 著作賞の対象となる著作物は以下の各号の何れかに該当するものでなければならない。

- 一 過去 2 年以内に出版もしくは公表された研究図書
- 二 過去 2 年以内に出版もしくは公表された研究もしくはプロジェクト成果報告書等
- 三 過去 2 年以内に出版もしくは公表された教科書もしくはマニュアルなどの教則本等

四 過去2年以内に出版もしくは公表された辞書、辞典もしくは用語集等

五 上記の他、過去2年以内に出版もしくは公表された著作物であって学会賞選考委員会(以下、委員会)が著作賞の表彰に値するものと認めたもの

(以上 日本地域学会 Web サイトより:

http://www.jsrsai.jp/Award/book_j.html

http://www.jsrsai.jp/index_jap.html)

*環太平洋産業連関学会学術賞

1.環太平洋産業連関分析学会の設立の目的達成を促進するために、学術賞、特別賞、奨励賞を設ける。

2.本賞は、本学会員による産業連関分析分野の優れた業績をあげた会員、あるいは本学会に顕著な貢献があった会員に授与する。

3.受賞一件に対し、賞状を贈呈する。 2.学術賞は、

優れた論文あるいは著書に対する賞である。

(以上 環太平洋産業連関学会 Web サイトより:
<http://www.sanken.keio.ac.jp/papaios/prize/prize/2013.html>

<http://www.sanken.keio.ac.jp/papaios/prize/prize/rule.html>)

本学会会員の環太平洋産業連関学会学術賞の受賞は、2012 年度受賞の久保庭真彰前代表幹事に引き続きの快挙です。

岡本会員の栄誉を称え、共に喜びたいと思えます。

(事務局)

日本経済学会連合平成 26 年度補助申請に関するお知らせ

日本経済学会連合より、加盟学会事務局に日本経済学会連合平成 26 年度事業の一環としての外国人学者招聘日補助、国際会議派遣補助、および学会会合費補助の要項、の申請書が届いています。

(1)外国人学者招聘日補助

第一次募集締切日 平成 26 年 2 月末日;

第二次募集締切日 平成 26 年 6 月 20 日

(2)国際会議派遣補助:

同 平成 26 年 2 月末日;

同 平成 26 年 6 月 20 日

(3)学会会合費補助:

同 平成 26 年 2 月末日;

同 平成 26 年 6 月 20 日

補助内容については、下記の WEB サイトでご確認ください。(<http://www.gakkai-rengo.jp/>)

日本経済学会連合の補助は、加盟学会単位での申請です。特に、国際会議派遣補助については、1 学会 1 件の申請となっており、加盟学会代表者の推薦を受けることが条件となっております。また、第一次募集においていずれかの補助を受けた場合、第二

次募集には学会として応募することが出来ません。更に、2 年連続して同一学会が補助を受けることも出来ません。

比較経済体制学会事務局では、上記補助をご希望の方々からの申請を受け付けています。

応募ご希望の会員のみなさまは、上記日本経済学会連合 WEB サイトにて申請書をダウンロードし、必要事項と各申請に必要な書類を同封のうえ、事務局までお送りください。事務局受付締切日は、各募集締切日一ヶ月前(第一次募集は平成 26 年 1 月末日、第二次募集は 5 月 20 日)とします。

応募者多数の場合は、幹事会において選考のうえ、本学会として推薦する応募を選定します。ただし、本学会の推薦が補助決定を約束するものではありません。詳しくは、日本経済学会連合 WEB サイトをご覧ください。

(事務局)

**日本学術会議経済学委員会「経済学分野の参照基準検討分科会」原案
に対する意見・要望募集について**

日本学術会議経済学委員会「経済学分野の参照基準検討分科会」の岩本康志委員長(東京大学)より、参照基準の分科会原案に対する意見・要望の募集(郵送提出・締切 12 月末)のお知らせが事務局に届いております。参照基準分科会原案については、こちらをご参照ください。

(http://www.sci.go.jp/ja/member/iinkai/bunya/keizai/pdf/teian_sanshoukijun_220701.pdf)

上記「幹事会だより」にもありますように、同分科会原案について、本学会では会員の皆様の多様な意見を尊重し、本学会としての統一見解は表明いたしません。会員の皆様の自己責任において表明なされる同分科会原案に対するご意見、ご要望については、事務局で一括受付し、事務局から参照基準検討分科会岩本康志委員長宛に郵送いた

します。つきましては、同分科会原案に対するご意見・ご要望を表明なされたい方は、**12 月 25 日必着で事務局まで**ご自身のご意見等をお寄せください。**(様式自由、御所属、御名前、御連絡先を明記の上、PDF ファイルでのメール送信か、郵送にて)**。(本件については、すでに 12 月 18 日付会員 ML でも御連絡しております。)

[事務局宛先]

〒950-218 新潟市西区五十嵐 2 の町 8050 番地
新潟大学経済学部 道上真有 宛

E-mail: michigami [at mark]econ.niigata-u.ac.jp

(事務局)

事務局だより

2014 年度全国大会の概要をご案内します。自由論題・パネルにつきまして、奮って御応募下さい。

また、本学会・米国比較経済学会・韓国比較経済学会・新興市場研究学会との共催で国際コンファレンスを開くこととなりました。会員の皆様におかれましては是非奮ってご参加下さい。

さらに、再来年の 2015 年は本学会・欧州比較経済学会・米国比較経済学会等との共催による第 1 回比較経済世界大会(The First World Congress of Comparative Economics)が 2015 年 6 月 25 日-27 日にイタリア・ローマで開催されます。こちらもお含みおきください。

2015 年はもう一つ、先日の臨時会員総会で本学会の協力が承認されました第 9 回国際中欧・東欧研究協議会(ICCEES)世界大会が、2015 年 8 月 3 日-8 日に日本・幕張で開催されます。

このように 2015 年は本学会が関係する国際大会が目白押しです。会員の皆様におかれましては引き続き奮ってご参加下さい。

新事務局となり半年が過ぎました。至らぬところが多々あるかと存じますが、引き続き事務局運営に温かいご理解とご助力をお願い申し上げます。

(事務局)

ニューズレター NO.46 発行

2013 年 12 月 24 日

比較経済体制学会事務局 (<http://www.jaces.info/info.html>)

総括担当: 新潟大学経済学部 道上真有
〒950-2181 新潟市西区五十嵐 2 の町 8050
Phone. & Fax 025-262-6518
E-mail: michigami (at mark) econ.niigata-u.ac.jp

会計担当: 一橋大学経済研究所 岩崎一郎
E-mail: iiwasaki (at mark) ier.hit-u.ac.jp
メンバーシップ管理担当/ Web サイト担当:
富山大学極東地域研究センター 堀江典生
E-mail: horie (at mark) eco.u-toyama.ac.jp